

2019年3月期 第3四半期決算説明における質疑応答の概要

(2019年2月6日(水)、東京)

【加工食品】

Q. 家庭用の冷凍食品市場の状況と今後の見通しを伺いたい。

A. 市場全体においては、前期第3四半期は伸びが非常に高く、今期のハードルが高かったこともあり若干停滞した。当社においては、市場停滞の影響に加え暖冬により季節商品の売上げが計画比で伸び悩んだが、主力の炒飯・ピラフ類やチキン加工品は堅調に推移し、全体では前期を上回る数値を残している。引き続き冷凍食品へのニーズは堅調であることから、第4四半期は市場トレンドの回復を想定し、主力商品や新商品の拡販を進める。

Q. 第4四半期増益の主なドライバーを教えてください。

A. 主に調理品を中心とする増収効果と商品ミックスの改善が寄与すると考えており、引き続きコスト削減を進める。海外関係会社の業績も計画通り改善している。

Q. 家庭用・業務用調理品の価格改定効果の見通しを伺いたい。

A. 家庭用については、主要米飯の5品目が対象だが、主に品質改良に伴う価格改定であり、原材料の米のコストアップ分を考慮すると、そのまま利益増に繋がるものではない。業務用については、畜肉や小麦粉等の原材料価格の高騰に加え、国内外における人件費や物流コストの上昇もあり、自助努力に加え今回の価格改定で吸収していく形となる。いずれも3月出荷分からの改定のため今期の業績影響は軽微であり、次期の業績影響については現時点で申し上げることはない。

【低温物流】

Q. 今期一時的な損益要因としてどの程度を見込んでいるのか。また、来期から収益性が改善していくイメージを持っていてよいか。

A. 一時的な要因としては、災害発生による業績影響額で年間2億円、そのほか東京港湾地区で再保管収支の悪化などがあった。また、来期以降の収益性については、利益率向上の主な施策として、適正料金の収受や業務革新による効率化などを進めていくが、引き続き成長投資や基盤強化の投資も必要である。元々減価償却費負担の大きい事業なので、EBITDAも合わせて見ていただきたい。

【水産】

Q. 水産事業は前期・今期と2期連続で減額修正の最も大きな要因となっている。市況ものという理由は分かるが、もっとビジネスリスクを最小限にするような施策はないのかという点をお聞きしたい。

A. 今回一部魚種の相場変動の影響を受け4億円の下方修正となってしまった。引き続き顧客ニーズに合った加工度で提供する商品の構成を増やし、安定利益の確保に努めていく。

以上

※当文書は当日の質疑応答内容をすべて記録したのではなく、株式会社ニチレイが編集を加えております。